

県立病院ではたらく仲間をつなぐ 病院組合ニュース

2019. 10. 15

No.119

愛知県病院事業庁職員組合
〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎内
電話(052)212-8031 FAX(フーアケス)0120-930-340
メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者 上田 一郎

職場要求書提出

10月8日、病院事業庁交渉を行い、「令和2年度当初予算計画に関する要求書」を病院事業庁へ提出し、統一要求の趣旨説明、各分会からの個別要求の説明を行い、現場の切実なる願いを病院事業庁へ伝えました。統一要求の回答は11月中旬、個別要求の回答は1月下旬の予定です。



組合アンケートや現場の声を集約し、統一要求で重点的に説明した項目の一部は次の通りです。

- 抗がん剤ミキシング業務や調剤業務に特殊勤務手当
- 薬剤師は、発がん性や催奇形性がある薬剤を日常的に扱っており、薬剤の吸入ばく露、針刺し、経皮ばく露場合等に健康被害リスクが高い。
- 調剤を行う薬剤師は業務上、著しく危険な行為であるため特殊勤務手当の支給を要望
- 正規職員から短時間職員への見直しとときは職員への負担とならないように
- 正規職員から短時間職員への見直しとときは職員への負担とならないように

○産休・育休の代替職員の配置
育休者等に伴う人員不足が生じると他の職員の負担が増え、多数の育休者等がある職場では業務の維持が困難の状況になっている。

○年休の取得
知事部局では年休の取得目標が14日である。病院事業庁でも同様の目標として、年休を多く取得できる職場作りを。

○駐車場の整備や駐車・駐輪料金の支給
職員用駐車場についてはまだ足りない状況であるため、職場の理由により職員用駐車場が利用できない職員は、病院近隣の駐車場を自費で借りたり、最寄り駅近くに駐車場や駐輪場を借りて公共交通機関で通勤したりしており、経済的負担が生じている。

○個別要求
個別要求では、各分会から次の要求を重点的に説明しました。

- がんセンター
 - ・育児短時間等の不足時間対応
 - ・外来看護師の適正化配置
- 精神医療センター
 - ・東1病棟2・3・8体制の配置を定数化
 - ・携帯の電波環境の改善
 - ・外出・外泊公用車の更新
- 小児センター
 - ・PICU・NICUを兼務する保育士1名の正規職員配置
 - ・理学療法士、言語聴覚士の定数増
 - ・23病棟の風呂場、多目的トイレの整備



愛知母親大会 in 知多市
分科会「地域にくるくると子ども食堂」に参加して
精神医療センター 都築 友香
第65回愛知母親大会に参加し、子ども食堂について知ることができました。
最近では、人とのつながりが少なくなってきたようですが、子ども食堂は、多くのボランティアで支えられています。食事をするだけでなく地域との交流の場となり、家庭や学校

病院組合立学習会
大丈夫かしら...
老後資金に2000万円必要!?
※詳細は職場に配布のチラシをご覧ください。

病院組合レク
日時：11月17日(日)
場所：ユニバーサル スタジオジャパン
※詳細は、職場に配布のチラシをご覧ください。

以外の居場所にもなることも知りました。季節に合わせた料理やイベントを家でするのは難しいことが多いので、私の住んでいる地域にも子ども食堂があれば、利用し参加していきたいと思いました。

2020年度病院組合役員です よろしくお願ひします

愛病組選管公示第2019-4-1号

2019年9月27日執行の愛知県病院事業庁職員組合2020年度役員選挙は、同年9月11日に立候補の受付を締め切ったところ、各役職について候補者が定数を超えなかったことから、愛知県病院事業庁職員組合選挙および投票管理に関する規則第22条第3項の規定に基づき、次の者を無投票当選とする。

2019年9月12日

愛知県病院事業庁職員組合
選挙管理委員会委員長 岡田 さゆり (公印省略)

役職名	氏名	所 属
執行委員長	上田 一郎 (再)	精神医療センター分会
副執行委員長	池田 誠 (新)	あいち小児保健医療総合センター分会
書記長	岩田 徹 (新)	がんセンター分会
執行委員	高原 裕子 (新)	あいち小児保健医療総合センター分会
"	大橋 悦子 (新)	がんセンター分会
"	段家 貴司 (新)	病院事業庁本庁分会
"	中村 正喜 (再)	精神医療センター分会
"	平野 さおり (新)	岡崎市派遣分会
"	酒井 宏尚 (新)	岡崎市派遣分会
監査委員	福吉 久恵 (新)	病院事業庁本庁分会
	小出 博孝 (再)	精神医療センター分会

愛病組選管公示第2019-4-2号

2019年9月27日執行の愛知県病院事業庁職員組合青年部2020年度役員選挙は、同年9月11日に立候補の受付を締め切ったところ、各役職について候補者が定数を超えなかったことから、愛知県病院事業庁職員組合選挙および投票管理に関する規則第22条第3項の規定に基づき、次の者を無投票当選とする。

2019年9月12日

愛知県病院事業庁職員組合
選挙管理委員会委員長 岡田 さゆり (公印省略)

役職名	氏名	所 属
青年部長	田岡 葉月 (新)	あいち小児保健医療総合センター分会
青年部副部長	伊藤 眞琴 (新)	精神医療センター分会
青年部事務局長	寺澤 帆香 (新)	がんセンター分会
青年部常任委員	水谷 武喜 (再)	病院事業庁本庁分会

愛病組選管公示第2019-4-4号

2019年9月27日執行の愛知県病院事業庁職員組合現業評議会2020年度役員選挙は、同年9月11日に立候補の受付を締め切ったところ、各役職について候補者が定数を超えなかったことから、愛知県病院事業庁職員組合選挙および投票管理に関する規則第22条第3項の規定に基づき、次の者を無投票当選とする。

2019年9月12日

愛知県病院事業庁職員組合
選挙管理委員会委員長 岡田 さゆり (公印省略)

役職名	氏名	所 属
現業評議会議長	神山 康彦 (新)	がんセンター分会

愛病組選管公示第2019-4-3号

2019年9月27日執行の愛知県病院事業庁職員組合女性部2020年度役員選挙は、同年9月11日に立候補の受付を締め切ったところ、各役職について候補者が定数を超えなかったことから、愛知県病院事業庁職員組合選挙および投票管理に関する規則第22条第3項の規定に基づき、次の者を無投票当選とする。

2019年9月12日

愛知県病院事業庁職員組合
選挙管理委員会委員長 岡田 さゆり (公印省略)

役職名	氏名	所 属
女性部長	岩本 実華 (新)	精神医療センター分会
女性部副部長	加藤 久美 (新)	がんセンター分会
女性部事務局長	伊井 きよみ (新)	あいち小児保健医療総合センター分会
女性部常任委員	河上 千恵 (再)	病院事業庁本庁分会

第46回医療研究全国集会 第65回愛知母親大会 第65回日本母親大会 参加報告

病院組合では毎年、全国で働く医療関係の仲間と一緒に学び、情報交換などを行うため、各種集会等へ組合員の方に参加していただいています。

今年も、「第46回医療研究全国集会 in 三重」(6月14・15日)9名、「第65回愛知母親大会 in 知多市」(8月4日)3名、「第65回日本母親大会 in 静岡」(8月24・25日)4名の組合員が参加しました。

医療研究全国集会 in 三重

医療研究全国集会に参加して

精神医療センター

谷口 和希

医療や福祉だけではなく、幅広い内容の研究集会であった。その幅広さは重要である。社会から切り離された「自分」などありえないし、社会と無関係に生きることは誰も出来ない。また医療と医療制度

分科会「災害時の医療介護労働者の役割と地域づくり」に参加して

精神医療センター

梶田 敦子

今回の集会を受け感じた事は、災害はいつ発生するか分からない。台風被害、東海・南海トラフ地震などの大規模な地震が発生したときに備え、事前の準備が重要であり、施設・病院とし具体的な避難訓練を行い、災害時のための患者の個人情報カードを患者情報や処方箋を電子カルテ以外に紙媒体にも保管する。いざという時のために必要な物品、マニュアルを備えておくことにより、非常時の患者ケアに活かせる。

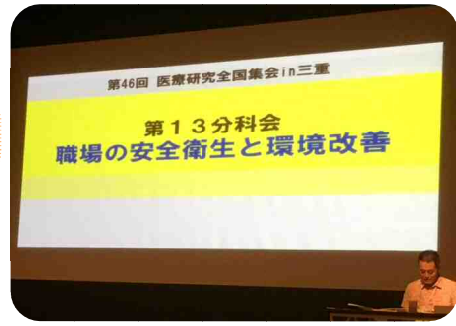
一つヒントとして有用な研究集会であった。分科会「災害時の医療介護労働者の役割と地域づくり」に参加して。今回の集会には、当病院は精神科病院として災害医療の拠点になることが求められる。今回の集会に参加し災害は今なお続いていて、これから必ず起こる事と意識し、精神科看護師として災害看護に取り組み、今何が出来るか、今後につなげるかを考えていかないといけないと学んだ。

分科会「心の病があっても普通に生活ができる社会を」に参加して

精神医療センター

岩本 実華

慢性期の精神科病棟において数十年にも渡る長期入院の患者もいる中で、精神医療の地域移行は大きな課題である。患者の症状が落ち着いていても家族や地域の受け入れが困難であったり、経済状況



分科会「看護ケアの質」に参加して

精神医療センター

伊藤 真琴

2日目の研修会では、全国からACPについて、事例が多く集まり皆んなで議論し合うことで、自分の仕事(看護)に活かせることが多くあると学びました。地域によっては、地域特性の連携方法があることを知れることは、全国から集まっている研修ならではの感覚を感じました。

全国の取り組みも活用しながら自分の地域

でも活かせたらいいなと思います。分科会「リハビリテーションの現場で求められるもの」に参加して。がんセンター。伊坪 浩幸。2019年4月から要介護認定者の外来リハビリが打ち切られて介護保険サービスへの誘導が行われるようになりまし

日本母親大会 in 静岡

分科会「子どもの心によりそって」に参加して

精神医療センター

佐藤 沙紀

引きこもり、不登校・登校拒否に関する分科会を聴講し、現在の学校教育の現状や、不登校の子どものいる母親の体験談を聞くことができた。学校教育では、児童・生徒になんでも揃えることを求めていること、宿題が多く学童保育や家に帰った後

も勉強をしなければいけないこと、塾や習いごとへ毎日のように行く

ているため遊ぶ時間が少ないことなどを聞くことが挙げられ、その全ては「子どものため」という大人の考えに「最近では、幼児教育でも学習を取り入れており、その影響で幼児期から神経症となり頭突き、かみつきなどといった自傷・他害行為を行ってしまうことも増えており、幼稚園や保育園にもカウンセラーが常駐しているという話を聞き、幼児期からストレスに悩まされていることに驚いた。

子ども同士の交流も増えていく。学歴社会である日本では、確かに勉強し、学力を向上することで社会に出たときに安定した仕事に就くことができる可能性が高くなる。ただ、勉強しすぎてこなかった子どもはストレスを発生する場がなくなったり、勉強以外のことが分からず挫折してしま

う問いを投げ掛ける場面があった。学校側が「いじめ」を認めないことなどがニュースで取り上げられることは多くあり、保護者会などで糾弾される場面をよくみかけた。しかし、助言者は、「不登校は家庭に助けを求めたサインである」と述べていた。自殺をするということは、さまざまな理由のなかで家庭に助けを求めたことができなかったのではないか。「子どものために」という言葉に、子どもの親だけではなく全ての人が向き合っていくべきなのではないかと感じた。

